

米空母艦載機受け入れの賛否を問う岩国投票の結果について

市民の良識を示した歴史的勝利

——基地強化計画の撤回へ、さらに世論と運動を広げよう——

2006年3月13日 日本平和委員会

1、昨日行なわれた米空母艦載機受け入れの賛否を問う岩国市住民投票は、投票率が58.68%となり、反対が4万3433票で87%、有権者の51%を越す結果となった。これは、市民の米空母艦載機受け入れ反対の圧倒的意思を明確に示した歴史的勝利である。政府をはじめ住民投票に対する妨害や圧力が加わる中で、市民の未来は市民の意思で決めるとの熱い思いで投票所に出向き、住民投票を成功させた岩国市民のみなさんの良識に、心からの敬意を表するものである。

2、この計画は空母艦載機57機を移転し、岩国基地に常駐する戦闘機数を倍加させるという、異常な基地強化計画である。これが今でさえ深刻な住民被害をいっそう激化させることは明白である。こうした市民の生活に深刻な影響を与える問題について、市民が自らの意思を住民投票によって示したのは当然のことである。

これに対し、政府は「安全保障の問題は国の専管事項」などとして住民投票の結果を無視する姿勢を示している。これは、憲法の保障する地方自治、国民主権、民主主義の原則をじゅうりんする暴論であり、断じて許すことはできない。それは、「地元の頭越しには進めないし、決めない」としてきた政府の言明や、「閣僚は、地元との調整を完了する」と明記した日米政府の「中間報告」にさえ反している。

政府は住民投票に示された市民の意思を厳粛に受け止め、計画を白紙撤回すべきである。

3、この岩国の住民投票の結果は、全国で米軍基地強化の押し付けに反対する自治体・住民に大きな激励を与えている。自治体・住民が固く団結して運動すれば、米軍基地強化押し付けをはね返すことは必ずできる。

日本平和委員会と山口県平和委員会は、この住民投票の成功のために、「反対に○をする会」をはじめとする広範な市民と共に、奮闘してきた。全国から募金を寄せ、支援に駆けつけていただいた仲間みなさんに、心から感謝の念を表明する。

私たちは、各地の自治体・住民のみなさんの基地強化押し付け反対の切実な要求の実現のために、今後とも尽力し、米軍再編強化計画を撤回させるため全力をあげるものである。